

尖閣諸島周辺の中国機の活動に関する公表状況について

- 防衛省では、様々な媒体を通じて尖閣諸島周辺の中国機の活動に関して公表し、国内外への情報発信に努めている。

〈防衛省HP/英語版防衛省HP〉

中国航空戦力等の我が国周辺空域における活動について掲載。

〈防衛白書(日・英)〉

〈防衛白書パンフレット〉

防衛白書パンフレットについては日本語の他、英語、中国語、韓国語、ロシア語版について作成。

〈広報誌「MAMOR」〉

防衛省が編集協力する「MAMOR」は、民間の出版社が編集・発行し、一般書店で販売する防衛省月刊広報誌。日本の防衛を担って活躍する防衛省・自衛隊の日頃の活動・情報を広く国民に発信。

〈英文広報パンフレット「JDF (Japan Defense Focus)」〉

在日の各国大使館等に対し、自衛隊・防衛問題等についてのトピックニュースをパンフレット(小冊子)形式で配布することにより、防衛省・自衛隊が現在取り組んでいる各政策、活動等のより一層の理解を促進させるための広報誌であり、毎月発行。

〈防衛省記録DVD(日・英)〉

防衛問題や自衛隊の実情などを視聴覚的に紹介し、各種施策及び自衛隊の活動に対する認識や理解を深めるとともに、親近感の醸成を図ることを目的として毎年作成。

平成28年版防衛白書(P55抜粋)

第1部 わが国を取り巻く安全保障環境 第2章 諸外国の防衛政策など 第3節 中国 2 軍事

同年11月23日、中国政府は尖閣諸島をあたかも「中国の領土」であるかのような形で含む「東シナ海防空識別区」を設定し、中国国防部の定める関連の規則に従わない場合は中国軍による「防衛的緊急措置」をとる旨を発表した⁷⁹。同日、Tu-154情報収集機及びY-8情報収集機がそれぞれ東シナ海を飛行しており、中国空軍は、当該防空識別区設定後、初のパトロール飛行を実施した旨公表している。また、同年12月26日には、当該防空識別区設定後の1か月で、中国軍は関係空域に偵察機、早期警戒機、戦闘機を51回、延べ87機出動させた旨公表している。

また、11(同23)年3月、4月及び12(同24)年4月には、東シナ海において警戒監視中の海自護衛艦に対して、中国国家海洋局所属とみられるヘリコプターなどが近接飛行する事案が発生している⁸⁰。さらに、14(同26)年5月及び6月には、東シナ海において通常の警戒監視活動を行っていた海自機及び空自機に対して、中国軍のSu-27戦闘機2機が異常に接近する事案が発生している⁸¹。中国国防부는、自衛隊の航空機が中国側の航空機に対し危険な行為を行ったなどと発表しているが、いずれの場合も、自衛隊機による活動は国際法にのっとった正当なものであり、自衛隊機が危険な行為などを行ったとの事実は一切ない。

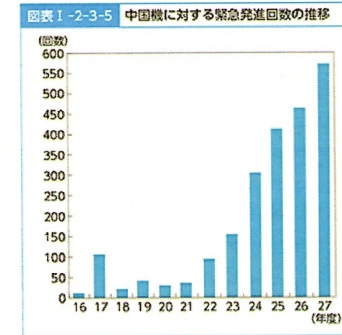
航空戦力の太平洋への進出については、13(同25)年7月にY-8早期警戒機1機が沖縄本島と宮古島の間を通過して太平洋に進出したことが、空自の対領空侵犯措置により初めて確認された。昨年(15(同27)年)も、2月には、Y-9情報収集機1機が2日連続で、5月には、H-6爆撃機2機が、7月には、Y-9情報収集機1機、Y-8早期警戒機1機及びH-6爆撃機2機の計4機が2日連続で、また、11月には、H-6爆撃機4機、Tu-154情報収集機1機及びY-8情報収集機1機の計6機⁸²が、それぞれ同様の飛行を行った⁸³。さらに、16(同28)年1月末には、Y-9情報収集機1機及びY-8早期警戒機1機の計2機が対馬海峡を通過し、初めて日本海で活動した。このように、中国機による活動はさらに活発化している⁸⁴。



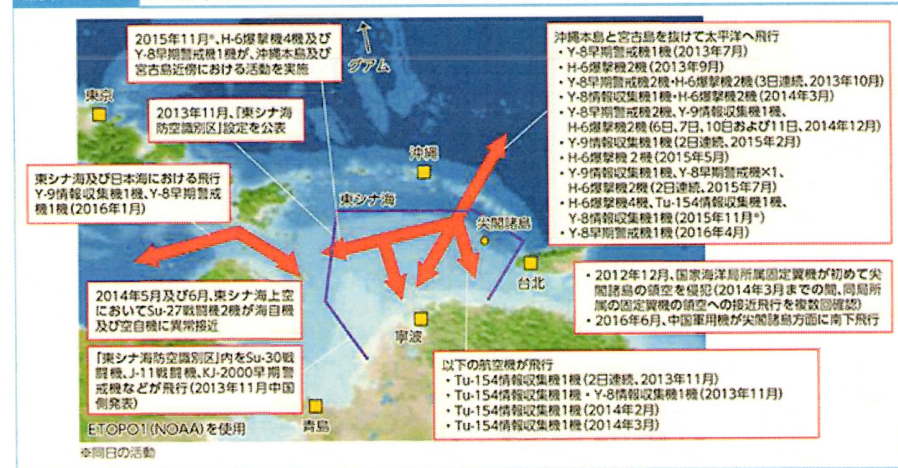
沖縄本島と宮古島間を通過して太平洋へ進出した
H-6爆撃機(15(平成27)年11月27日)

尖閣諸島及びその周辺上空のわが国領空については、12(同24)年12月に、中国国家海洋局所属の固定翼機が中国機として初めて当該領空を侵犯する事案が発生し、その後14(同26)年3月までの間、同局所属の固定翼機の当該領空への接近飛行がたびたび確認された⁸⁵。また、最近では中国軍用機が南下するといった尖閣諸島近傍での活動の活発化も確認されている。16(同28)年6月、航空自衛隊戦闘機が尖閣諸島方向に南下飛行した中国軍機に対し、対領空侵犯措置を行ったことに関し、中国国防부는自衛隊機が中国軍機に対して挑発を行ったなどと公式発表⁸⁶を行った。しかしながら、自衛隊機は国際法及び自衛隊法に基づいて対領空侵犯措置を実施しており、中国軍機に対して挑発的な行為をとったという事実は一切ない。最近の中国軍用機による尖閣諸島近傍における活動について、今後も強い関心をもちて注視していく必要がある。

参照 図表I-2-3-5(中国機に対する緊急発進回数)の推移、図表I-2-3-6(わが国周辺空域における最近の中国の活動)



図表 I-2-3-6 わが国周辺空域における最近の中国の活動(航跡はイメージ)



平成28年版防衛白書(P286抜粋)

第Ⅲ部 国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取組

第1章 わが国の防衛を担う組織と実効的な抑止及び対処

第2節 実効的な抑止及び対処

1 周辺海空域における安全確保

緊急発進するF-15戦闘機

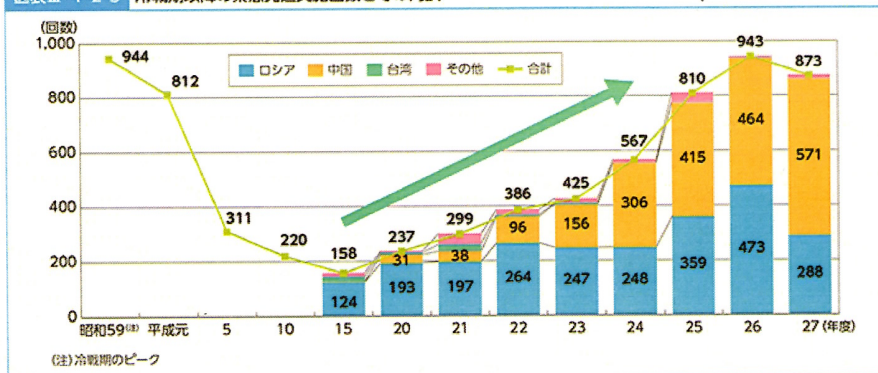
12（平成24）年12月には、中国国海洋局所属固定翼機（Y-12）が尖閣諸島魚釣島付近において領空を侵犯し、15（同27）年9月には、ロシア機（推定）が北海道根室半島沖を領空侵犯する事案が生じた。また、同年には、中国軍機による沖縄本島と宮古島間を通過する長距離飛行やロシア軍機によるわが国周辺における長距離飛行などの特異な事案が生起するなど、中国軍及びロシア軍は、わが国周辺における活動を活発化させている。これらの事案に対し、空自は戦闘機を緊急発進させて対応しており、平成27年度の空自機による緊急発進（スクランブル）回数は、873回であった⁵。

そのうち、中国機に対する緊急発進回数は571回であり、前年度と比べ107回増加し、対象国・地域別の緊急発進回数の公表を開始した平成13年度以降最多となった。

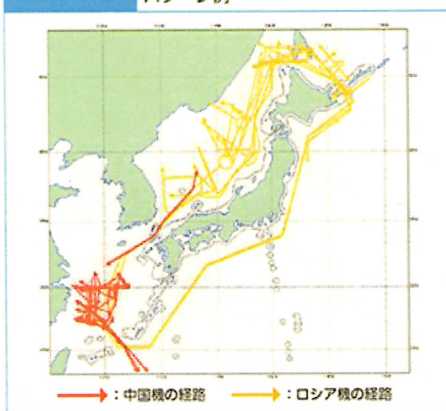
なお、13（同25）年11月の、中国による「東シナ海防空識別区」設定後も、防衛省・自衛隊は、当該区域を含む東シナ海において、従前どおりの警戒監視などを実施しており、引き続き、わが国周辺海空域における警戒監視に万全を期すとともに、国際法及び自衛隊法に従い、厳正な対領空侵犯措置を実施している。

参照 [資料24（自衛隊の主な行動）](#)、[資料25（自衛官又は自衛隊の部隊に認められた武力行使及び武器使用に関する規定）](#)、[図表III-1-2-3（冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳）](#)、[図表III-1-2-4（緊急発進の対象となった航空機の飛行パターン例）](#)、[図表III-1-2-5（わが国及び周辺国の防空識別区（ADIZ））](#)

図表Ⅲ-1-2-3 冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



図表Ⅲ-1-2-4 緊急発進の対象となった航空機の飛行パターン例



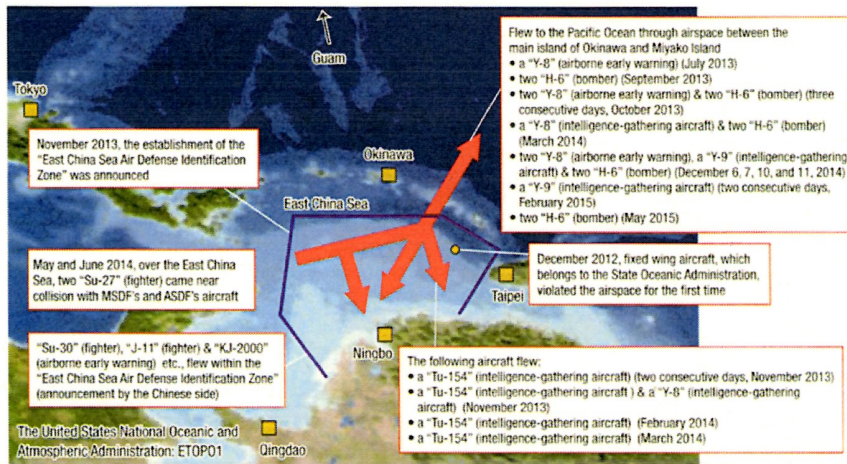
図表Ⅲ-1-2-5 わが国及び周辺国の防空識別区（ADIZ）



平成27年版防衛白書パンフレット(英語版)抜粋

- The Chinese government announced that it established the "East China Sea ADIZ" including the Senkaku Islands which China described as if they were a part of China's "territory," and that the Chinese Armed Forces would take "defensive emergency measures" in the case where aircraft does not follow the relevant rules set forth by the Chinese Ministry of National Defense. These measures unduly infringe the freedom of overflight over the high seas, which is the general principle of international law. Japan is demanding China to revoke any measures that go against the principle of the freedom of overflight over the high seas.
- It is thought that one of the objectives of China's maritime activities is to weaken the control of other countries over the islands to which China claims territorial sovereignty, while strengthening the claim of its territorial sovereignty, through various surveillance activities and use of force at sea and in airspace surrounding the islands.

Recent Chinese Activities in Airspace near Japan



平成27年版防衛白書パンフレット(中国語版)抜粋

- 中国政府以尖阁诸岛形同“中国领土”的形式，划设了包括尖阁诸岛在内的“东海防空识别区”，并表示如不按照中国国防部的相关规定行事，中国军方将采取“防御性紧急措施”。依照国际法一般原则，此类措施是对公海上空飞行自由原则的不当侵害，我国要求中方撤回妨碍公海上空飞行自由的所有措施。
- 中国在独自主张领有权的岛屿周边海域空域，通过开展各种监视活动、行使武力等方式，削减他国控制，强力主张本国领有权，可以推测这是中国海洋活动的目标之一。

最近中国在我国周边空域的活动情况(航行轨迹示意图)



日本語以外の言語は、上記の他、韓国語版、ロシア語版の防衛白書パンフレットを作成している。

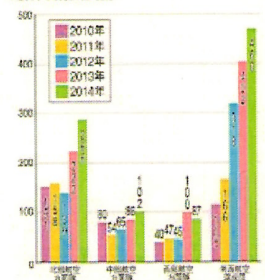
최근 일본 주변 공역에서의 중국의 활동 (항적은 이미지)



Действия Китая, совершаемые в последние годы в воздушном пространстве вокруг Японии (траектории полетов приведены в качестве иллюстрации)



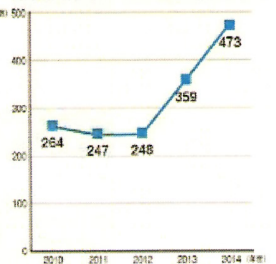
航空方面隊別の緊急発進回数
※2015年3月31日時点



2014年に緊急発進の対象となった主なロシア機



北方地域からのロシア機の侵入回数*

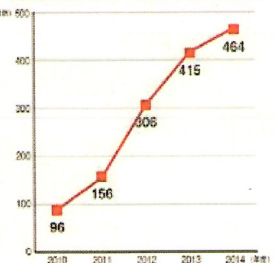


MILITARY REPORT

2014年に緊急発進の対象となった主な中国機



南西地域からの中国機の侵入回数*



西空隊では、2012年を境に、中国機の侵入回数が急増した。2013年には、ロシア機へのスクランブルの実施回数が増え、2014年には415回に達した。中国機は415回、地域別にみると、北中国方面からのスクランブル実施回数が222回を占め、中国と国境を接する南西地域の防衛の任務に深く関係する。中国機は415回と大きく上回っている。

一方、他国機が頻りに侵入する南西地域の防衛への対応は急務となっており、2012年からは航空自衛隊の派兵基地に所属するE-2Cが航空自衛隊の警戒活動を行ってきた。しかし、今後の南西地域での迅速な警戒監視任務を遂行させるべく、2014年1月、那覇基地にE-2Cが配備された。それとともに、新編部隊が配備された。その役割は、今回取材した第603飛行隊だ。



三沢から

変化する脅威に合わせ、
南西の空にらみを利かせるE-2C

別冊 別冊 別冊

航空自衛隊 第603飛行隊

東西冷戦が終結して以降、各国のパワーバランスが変化したことによって、日本の防空のあり方も変わってきています。それまでは北方からの日本領空への侵入に対処するため、浜松基地と三沢基地を拠点として航空自衛隊が警戒監視活動を行ってきましたが、ここ数年、南西地域の他国機の侵入が増加。そこで2014年、警戒監視活動を遂行する新たな部隊が那覇基地に新編されました。それが第603飛行隊。早期警戒機E-2Cで南西地域の空を見守るその新編部隊を訪れました。

国際情勢の変化に伴い南西地域でのスクランブルが増加。第2次世界大戦の終結後、世界は大きく分かれた。冷戦期には、アメリカ合衆国を中心とする西側の資本・自衛隊と、ソビエト連邦を中心とする東側の共産・社会主義陣営。東西冷戦といわれたこの時代、西側陣営に属する日本は、主に連合軍の北方からの侵入を警戒するために、1982年に首座の三沢基地に警戒監視部隊（現・警戒航空隊E-2C）を配備し、警戒監視活動を開始した。

1991年のソビエト連邦の崩壊後、経済的困難による中国の官製やロシアの軍事力など、各国のパワーバランスは変動していく。冷戦期の1984年をピークに減少していた航空自衛隊によるスクランブル回数は、2013年には2010年を境に再び増加。2010年からは南西地域での侵入への警戒活動も始まり、2014年にはスクランブルの年間の実施回数が増え、415回に達した。冷戦期のピーク時に近づいてきた。

その状況に合わせて、南西地域のスクランブルの役割となった他国機の

No.79 Aug.2016

Status of Scrambles through the First Quarter of FY2016

The ASDF scrambled 281 times during the first quarter of FY2016, which marked an increase of 108 times compared to the same period of the previous year. The breakdown of scrambles by countries and regions was about 71% against Chinese aircraft, about 28% against Russian aircraft, and 1% against other aircraft although the countries and regions include supposition.

total, an increase of 21 times compared to the same period of the previous year.

There was no case of airspace violation that should be made public during this period.

Scrambles against Chinese fighter aircraft and intelligence gathering aircraft and Russian fighter aircraft were outstanding in frequency compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation.

The period of this data is from April 1st, 2016, to June 30th, 2016.

Characteristics of Responses through the First Quarter of FY2016

The ASDF scrambled 199 times against Chinese aircraft in total, an increase of 85 times compared to the same period of the previous year. Activities of Chinese aircraft have been expanding and intensifying.

The ASDF scrambled 78 times against Russian aircraft in



Recent Movement of Chinese Ships

Here are recent movements of Chinese ships.

The MOD/SDF will continue to devote full-fledged efforts to surveillance and information gathering while continuing to deal with in a calm manner so as to avoid escalating the situation unnecessarily and while firmly protecting Japan's territorial land, seas and airspace, including the Senkaku Islands, which is an inherent part of the territory of Japan.

intelligence collection vessel of the Chinese Navy sailing down Japanese territorial waters at the west of Kuchinoerabu Island (Kagoshima Prefecture) southeastward.

③Around 3:05 p.m. on June 16th:

The MSDF destroyer observed a Dongdiao-class intelligence collection vessel of the Chinese Navy entering the Japanese contiguous zone at the north of Kitadaito Island (Okinawa Prefecture).

④Around 5:00 p.m. on June 19th:

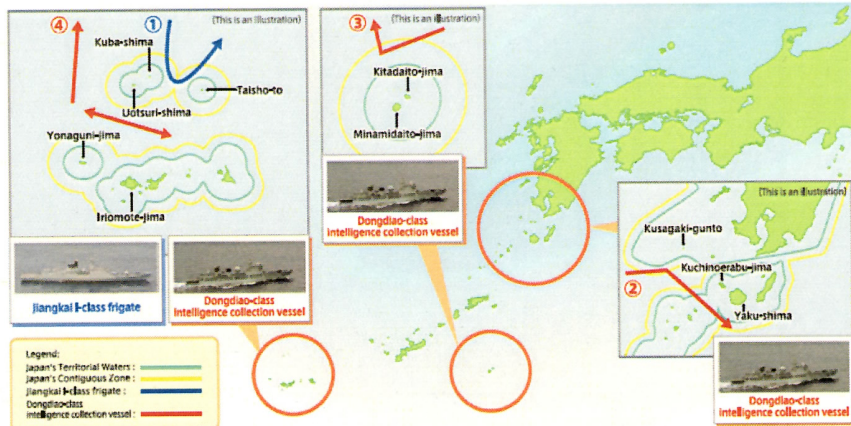
The MSDF supply vessel observed a Dongdiao-class intelligence collection vessel of the Chinese Navy sailing eastward down waters outside of the contiguous zone at the south of the Senkaku Islands. The MSDF observed the Chinese vessel sailing back and forth several times between east and west until around 2:00 p.m., on June 20th. Subsequently, the MSDF observed the Chinese vessel sailing northward down waters outside the contiguous zone at the west of Uotsuri Island of the Senkaku Islands (Okinawa Prefecture).

①Around 0:50 a.m. on June 9th:

The MSDF destroyer observed a Jiangkai I-class frigate of the Chinese Navy entering the Japanese contiguous zone at the northeast of Kuba Island of the Senkaku Islands (Okinawa Prefecture). As China repeatedly intruded into Japan's territorial waters around the Senkaku Islands with government-owned vessels based on its own unique claims, it sent a Navy vessel into the contiguous zone for the first time.

②Around 3:30 a.m. on June 15th:

A P-3C patrol aircraft of the MSDF observed a Dongdiao-class



No.76 May 2016

In total, the ASDF scrambled 873 times in FY2015, which marked a decrease of 70 times compared to the previous year. The breakdown of scrambles by countries and regions was about 63% against Chinese aircraft, about 33% against Russian aircraft, and about 2% against other aircraft although the countries and regions include supposition.

Characteristics of Responses in FY2015

The ASDF scrambled 571 times against Chinese aircraft in FY2015, an increase of 107 times compared to the previous year. It is the highest number since 2001, in which the MOD began publicizing the number of scrambles by countries and regions. In FY2015, the MOD publicized 14 cases as a peculiar flight, including a case, which aircraft passed through the Tsushima Strait for the first time and flew over the Sea of Japan.

The ASDF scrambled 288 times against Russian aircraft in FY2015, a decrease of 355 times compared to the previous year. In FY2015, the MOD publicized 10 cases as airspace violation and a peculiar flight. Scrambles against Chinese fighter aircraft and Russian intelligence gathering aircraft were outstanding in frequency compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation. The period of this data is from April 1st, 2015, to March 31st, 2016.

Status of Scrambles in FY2015

No.73 Feb.2016

The ASDF scrambled 567 times during the third quarter of FY2015. It marked a decrease of 177 times compared to the same period of previous year. The breakdown of scrambles by countries and regions was about 66% against Chinese aircraft, about 32% against Russian aircraft, and about 2% against other aircraft although the countries and regions include supposition.

Characteristics of Responses through the Third Quarter of FY2015

The ASDF scrambled 373 times against Chinese aircraft in total, the equivalent level as the same period of previous year. Also, during the third quarter, the MOD publicized 5 cases of long-distance flights, covering from the East China Sea to the Pacific Ocean as a peculiar flight.

The ASDF scrambled 184 times against Russian aircraft in total, a decrease of 106 times compared to the same period of previous year. Additionally during the third quarter, the MOD publicized 3 cases, including a long-distance flight, which flew around Japan by a bomber, as a peculiar flight. Scrambles against Chinese and Russian fighter aircraft were outstanding in frequency, compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation. The period of this data is from April 1st, 2015, to December 31st, 2015.

Status of Scrambles through the Third Quarter of FY2015

2. Number of commercial vessels confirmed: Approx. 490 (484, 496 vessels)

No.70 Nov.2015

Status of Scrambles through the First Half of FY2015

The ASDF scrambled 343 times during the first half of FY2015. It marked a decrease of 190 times compared to the same period of previous year. The breakdown of scrambles by countries and regions was about 67% against Chinese aircraft, about 32% against Russian aircraft, and about 1% against other aircraft although the countries and regions include supposition.

Characteristics of Responses through the First Half of FY2015

The ASDF scrambled 231 times against Chinese aircraft in total, an increase of 24 times compared to the same period of previous year. It is the highest number since 2001, in which the MOD began

publicizing the number of scrambles by countries and regions.

Also, the MOD publicized 7 cases as a peculiar flight. The ASDF scrambled 108 times against Russian aircraft in total, a decrease of 216 times compared to the same period of previous year.

The MOD made a case public as airspace off the Nemuro Peninsula, Hokkaido, was violated on September 13th. Additionally, the MOD publicized 4 cases as a peculiar flight.

Scrambles against Russian and Chinese fighter aircraft were outstanding in frequency, compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation.

The period of this data is from April 1st, 2015, to September 30th, 2015.

No.67 Aug.2015

Status of Scrambles through the First Quarter of FY2015

The ASDF scrambled 173 times during the first quarter of FY2015. It marked a significant decrease of 167 times compared to the same period of previous year.

The breakdown of scrambles by countries and regions was about 33% against Russian aircraft, about 66% against Chinese aircraft, and about 1% against other aircraft although the countries and regions include supposition.

Characteristics of Responses through the First Quarter of FY2015

The ASDF scrambled 57 times against Russian aircraft in total, a significant decrease of 178 times compared to the same period of previous year.

The ASDF scrambled 114 times against Chinese aircraft in total, an increase of 10 times compared to the same period of previous year.

There was no case of airspace violation that should

be made public during this period. Scrambles against Russian surveillance aircraft and Chinese fighter aircraft were outstanding in frequency, compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation.

The period of this data is from April 1st, 2015, to June 30th, 2015.

No.64 May 2015

Status of Scrambles in FY2014

In total, the ASDF scrambled 943 times in FY2014, which marked a major increase of 133 times compared to the previous year. It is the 2nd largest number since the ASDF started taking anti-intrusion measures in 1958.

The breakdown by countries and regions was 50% against Russian aircraft, 49% against Chinese aircraft, and 1% against other aircraft, although countries and region also includes supposition.

Characteristics of Responses in FY2014

The ASDF scrambled against Russian aircraft 473 times in FY2014, an increase of 114 times compared to the previous year. In FY2014, 36

cases of scrambles, including 5 during the fourth quarter, were made public as remarkable cases.

The ASDF scrambled against Chinese aircraft 464 times in FY2014, an increase of 49 times compared to the previous year. In FY2014, 15 cases of scrambles, including 2 during the fourth quarter, were made public as remarkable cases.

There was no case of airspace violation that should be made public. Scrambles against Russian intelligence gathering aircraft and Chinese fighter aircraft were outstanding in frequency, compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation.

The period of this data is from April 1st, 2014, to March 31st, 2015.

No.61 Feb.2015

Status of Scrambles by the End of the Third Quarter of FY2014

The ASDF scrambled 744 times by the end of the third quarter of FY2014. It marked a major increase of 181 times compared to the same period of previous year.

The breakdown by countries and regions was 50% against Chinese aircraft, 49% against Russian aircraft, and 1% against other aircraft although the countries and region include supposition.

Characteristics of Responses by the end of the Third Quarter of FY2014

The ASDF scrambled 371 times against Chinese aircraft, an increase of 84 times compared to the same period of previous year. The MOD made 13 cases public as peculiar flights of Chinese aircraft, including the long distance flight from the East China Sea to the Pacific during the third quarter.

The ASDF scrambled 369 times against Russian aircraft, an increase of 98 times compared to the same period of previous year. The MOD publicized 2 cases as peculiar flights by Russia during the third quarter.

There was no air intrusion during the period. Scrambles

against Chinese fighter aircraft and Russian reconnaissance aircraft were outstanding in frequency, compared to other types of aircraft of each country, although this includes estimation.

The period of this data is from April 1st, 2014, to December 31st, 2014.

平成26年防衛省記録DVD (2'10")

周辺海空域における警戒監視

周辺海空域における警戒監視

Warning and Surveillance in Waters and Airspace Surrounding Japan



新田原基地におけるスクランブル

平成26年防衛省記録DVD (2'32")

航空自衛隊の年間の緊急発進回数

